

本番に向けてGOサイン

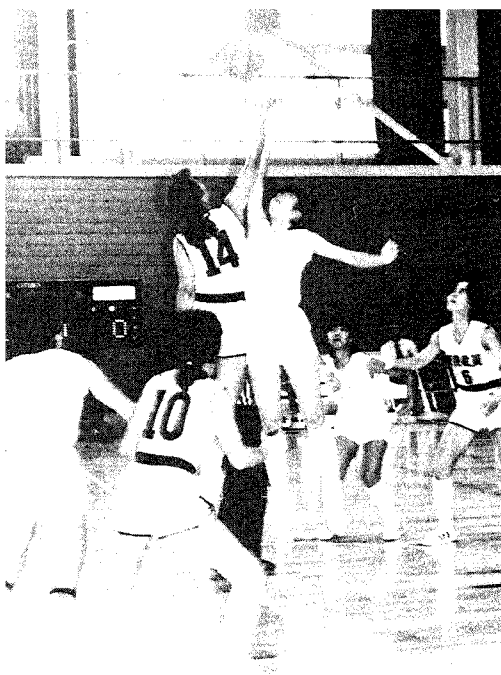
サル。全日本教員バスケット大会終わる

熱戦・熱狂・熱涙

市民の力で最高の演出

八月九日から始まった全日本教員バスケットボール選手権大会は、好ゲームのすえ男子新潟県代表チーム、女子・兵庫県代表チームが優勝、四日間に渡る熱戦に幕を閉じまし

た。男子・山梨県代表チームは惜しくも東京都代表に三回戦で破れたもののレベルの高い試合を展開、次回への望みを



今回は、総勢千四百名にも及ぶ選手・役員を迎え、市民をはじめ高校生に至るまで幅広い人たちの協力を得た大会となりました。

また、来年のかいじ国体に向けての総練習ともいえるこの大会が成功のうちに終了できましたことは、市民一丸となつての協力があつたもので、かいじ国体への大きな自信となりました。

開会式を
盛り上げた
小さな巨人たち

選手団の退場するなか、かわい服を着た東桂保育園児は、緊張した顔で、西側通路にて待機「さー本番」、ドラムメジャーの天野智奈美ちゃんを先頭に入場、二階の満員の客席からは大きな拍手「だいじょうぶかな」、いよいよマーチングバンドの披露、ドラム、キーボード、ボンボン



国体への参加は子供たちにとって、感動的な“出会い”になると思います。(東桂保育園・矢羽正子園長)

そして旗を持ったカラーガード隊、合わせて六十三名によるみごとな演奏に、またもや大拍手。大好きなブル遊びも我慢して、一日一時間の練習の成果がみごとにのりました。退場してゆくチビっ子たちの顔もニツコリ、「おつかれさまでした」、選手団の中からも「うまかったね!」の連発。「一生けん命練習してもっと上手になりたい」とチビっ子たちは張り切っていました。